

「主の十字架の恵み」 マタイ 27：45—54

この受難週の日曜日午前9時から午後3時まで私達を心から愛して私達の罪の為に十字架で想像を絶する苦しみを受けられた主。

I 主の十字架上の7つの御言葉。①ご自分を十字架につける者達の為のとりなしの祈り。深い愛。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」ルカ 23：34。今私達が救われているのは、この主の深い愛のとりなしのおかげ。②十字架上で悔い改めた強盗に「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます」23：43。死の直前まで人々の救いをあきらめてはいけない。希望がある。③母マリヤと弟子ヨハネへ「女の方。そこに、あなたの息子がいます」「そこに、あなたの母がいます」ヨハネ 19：26, 27。マリヤの辛さ「剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう」ルカ 2：35。主の苦しみを見る母の辛さ。自分が亡くなった後の親への主の深い思いやり。④「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」との叫び。この深い意味は、後で説明。これ以降、死が目前に迫り、肉体は限界で言葉使いも断片的になる→⑤「わたしは渇く」ヨハネ 19：28。主の御体の水分、命は、罪のない主の聖い血が一滴一滴、流れ落ちる毎に失われ、想像し難い渴きを味わわれた。私達の罪の為に。本来私達が自らの罪の為に味わうべき渴き（ルカ 16：24）を主が身代わりに味わい、主を信じる私達には、苦しい渴きの代わりに生ける水を下さる。ヨハネ 7：37, 38。⑥「完了した」ヨハネ 19：28。罪のない主の十字架の血が注がれた事により、私達罪人である人間のすべての罪の贖い（主の血という高価な代価を払って、滅びから買い戻される恵み）、償いが完全に完了した。⑦「父よ。わが霊を御手にゆだねます」ルカ 23：46。主は、御父からの使命（私達人間、罪人の為の救いの御業を成し遂げる）を完全に全うされ、御自身の霊を御父に委ねられる。

II 私達の罪の為に十字架の上で、ののしりを受けられる主。私達の救いが成就する為に私達を愛し最後まで耐え忍ばれる主をこの受難週に深く思いたい。「彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから」マタイ 27：42。人となられた主は、神でもあられ、この時、十字架から降りることがおできになった。しかし、ここで、十字架から降り、自分を救われたら、私達の救いはなかった。主は、すべての罪人である人間の為に激しい苦しみの十字架に留められた。感謝！「イエスといっしょに十字架につけられた強盗どもも、同じようにイエスをののしった」：44。「ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました」I ペテロ 2：23, 24。

III 私達の罪の為に十字架の上で叫ばれた主。1. 「さて、一二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた」マタイ 27：45。「全地が暗くなって」→主が全人類の身代わりとなって経験された霊的暗黒、神からの断絶の恐怖を象徴。すべての人の罪への神の聖なる怒り、さばき。光を与える神との断絶の暗黒。2. 「三時ごろ、イエスは大声で、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ。』と叫ばれた。これは、『わ

が神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。』という意味である」：46。私達の罪の為の主の十字架の激しい苦しみは、午前九時から午後三時まで続いた。ここまで、苦しみの杯を私達の罪の為に飲み尽くして下さった。主は大声で叫ばれた。主は神から見捨てられた呪い（私達が受けるべき罪の刑罰）を感じておられた。「お見捨てになった」→永遠の初めから持つておられた神のひとり子であられる御子と父なる神との愛の関係、交わりが、この時は断絶し、愛と信頼に満ちた父と子の関係ではなく、義なる審判者なる神と全人類の罪を負われた罪人（私達の身代わり）という関係に入っておられた。御子イエスは、神を当然、何度も「父」（ヨハネ17：1、5、11、21、24、25、マタイ26：39、42）と親しく呼んでおられる。しかし、この十字架の上では、「わが父よ」ではなく「わが神、わが神」。この時は御子の立場ではなく、私達の身代わりの罪人。自らは何一つ罪を犯さず、裁かれる事も死ぬ事もあり得ない主が、私達の罪の為に死に渡され、私達の罪への神の正しい罰、怒り、呪いを受けておられる。全人類（私達を含む）の罪に対する刑罰、御怒り、呪いの集中であるこの十字架の苦しみ、神との断絶、霊的暗黒は、いかばかりの痛みだったのだろうか。：46の主の大きな叫びを通して、私達の為に贖いの死を遂げられた主の内面の苦闘を深く黙想したい。最後のお言葉をもう一度見たい→「父よ。わが霊を御手にゆだねます」ルカ23：46。※ここでは、「神よ」ではなく、「父よ」に戻っている事に注目したい！「わが神、どうして」→全人類の贖いが「完了した」→ので、父と子の関係が回復し、最後に「父よ」と呼びかけ、息を引き取られた。3.「すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた」マタイ27：51。主の死とゴルゴタから離れたエルサレムの神殿の幕が裂けた深い関係。神殿の幕は、聖所と至聖所を隔てていた幕。「その垂れ幕は、あなたがたの為に聖所と至聖所との仕切りとなる」出26：33。「第二の幕屋（至聖所）には、大祭司だけが年に一度だけは入ります。そのとき、血を携えずにはいるようなことはありません（贖罪の為）」へブル9：7。主は、真の大祭司として十字架で血を注ぎ出し、真の贖罪を成就された。それ故に、神に誰でもは近づけないようにしていた神殿の幕が上から下まで裂けた。「上から下まで」→人間が裂くのであれば、下から。ここでは上から→神が裂いて下さった。旧約聖書の規定が、主の十字架で成就し、主を通して神に近づく道がすべての人に、私達に開かれた恵みを心から感謝します！